

お知らせ

●令和4年度通常総会の日程

日時：令和4年5月19日（木）14：00～18：00
（景観デザイン賞表彰式：15：50～16：50）
（創立70周年記念講演：17：00～18：00）

場所：奈良県コンベンションセンター

議事：令和3年度事業報告及び決算について

令和4年度事業計画及び予算について 他

※ 事業報告会、懇親会は開催いたしません。

尚、今後の新型コロナウイルスの状況次第で日程等を変更する場合があります。

※ 正会員の皆様は、通常総会の案内についている出欠表を提出頂きますようお願いいたします。残念ながら欠席される場合には、必ず委任状も記載頂きますようお願いいたします。
（締め切り：5/6（金））

●総会終了後、景観デザイン賞表彰式及び奈良県建築士会創立70周年記念講演会が開催されます。

●年会費納入のお願い

本年度会費につきまして、未納の方は速やかにお振込み頂きますようお願いいたします。

●事務局長交代

令和4年3月31日を以て有本事務局長が退任され、松岡様が就任されました。

～有本元事務局長永らくお疲れ様でした。

●入会 岡田 有為 様（奈良支部）

よろしくお願いいたします。

●訃報 奥村 忠男 様（天理支部）
ご冥福をお祈りいたします。



新事務局長ご挨拶

令和4年4月1日付で、当会の事務局長に就任いたしました松岡慎司と申します。多様な事務局業務を理解するまでには、会員の皆様に、ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、できるだけ早く業務に習熟し、当会の発展に尽力していく所存ですので、どうかご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。近年、建築士の職域は、建築物の設計、施工のみでなく、まちづくりやコミュニティの場づくりなどにも、その優れた技能を発揮することが求められており、社会に貢献する活動が一層、期待されています。当会は「地域社会の安全かつ健全な発展と建築文化の振興に寄与し、広く社会に貢献する」ため、会員の皆様の業務の進歩改善に資する取組を進めることを法人としての目的としており、事務局は、会員の皆様の活動を支援する役割を担うべきと考えております。

今後も、事務局にお気軽に声をかけていただき、ご利用いただけますようお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。
【記：新事務局長 松岡慎司】



編集後記

平和の祭典、冬季オリンピック・パラリンピックが無事に閉幕したのも束の間、連日、悲しい報道が続いております。映画「黒い雨」の一節に『いわゆる正義の戦争より不正義の平和の方がいい』とのセリフがあります。不正義とは言いませんが、早く平和な世界になってほしいと祈る、今日この頃です。 【記：松尾憲治】

5月 18日（水）監理技術者講習
19日（木）令和4年度通常総会
景観デザイン賞表彰式
創立70周年記念講演

6月 8日（水）建築士定期講習
15日（水）監理技術者講習

士 会 奈 良 通巻 643 号

令和4年5月1日（発行隔月1回1日発行）

発行所 一般社団法人 奈良県建築士会

〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館

電話：0742-30-3111 FAX：0742-33-4333

https://nara-kenchikushikai.or.jp/

info@nara-kenchikushikai.or.jp

発行責任者 米村 博 昭

編集 （一社）奈良県建築士会 情報・広報委員会



情報・広報委員会

委員長	福田 成生		
副委員長	松田 七彦	宮浦 重彦	
委員	中元 綱一	伊藤 吉郎	
	門脇 直也	松尾 憲吾	
	松尾 憲治	大倉 克之	
	小西 直樹	山崎 修裕	
	小松原寛俊	洞 尚樹	
	押部 誠		

総合資格学院は「日本一」の合格実績！

1級建築士試験
全国
合格者占有率
No.1

※全国合格者数・全国ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。
※学科・製図ストレート合格者とは、令和3年度1級建築士学科試験に合格し、令和3年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。
※総合資格学院の合格実績には、模範試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受験生は一切含まれておりません。

令和3年度 1級建築士 学科・設計製図試験

全国
ストレート
合格者占有率
59.2%

全国ストレート合格者**1,342**名中／当学院当年度受講生**794**名
(令和3年12月24日現在)

令和3年度 1級建築士 設計製図試験

全国
合格者占有率
52.7%

全国合格者**3,765**名中／当学院当年度受講生**1,986**名
(令和3年12月30日現在)

総合資格学院

学院長 岸 隆司

奈良校 近鉄大和西大寺駅北口から徒歩5分

TEL.0742-30-1511

奈良県奈良市西大寺町

3-27 泉谷ビル 4F

www.shikaku.co.jp
Twitter → @shikaku_sogo
LINE → 「総合資格学院」
Facebook → 「総合資格 fb」で検索！

開講講座

1級・2級 建築士/建築・土木・管工事・造園施工管理技士/設備・構造設計1級
建築士/建築設備士/宅建士/賃貸不動産経営管理士/インテリアコーディネーター

期間
限定
無料でお届け!!
建築士受験生応援キャンペーン
プロ講師による講義 学習に役立つ教材
令和4年
6月上旬まで
お申し込みは
▼コチラ▼



表紙の人

ほざん こういち
保山 耕一 氏

（映像作家）



【プロフィール】

1963年東大阪生まれ。

奈良県生駒市在住。

フリーランステレビカメラマン、映像作家。

テレビカメラマンとして番組のジャンルを問わず撮影を担当。

「奈良には365の季節がある」をテーマに奈良県各地の風景を撮影。

2018年なら国際映画祭春日大社奉納上映会（2018、2020）にて作品を上映。

2019年第7回水木十五堂賞受賞
2019年第24回奈良新聞文化賞受賞

2019年NHK奈良「ならナビ」にて「やまとの季節 七十二候」を放送開始。

2020年NHKBS4K「やまとの季節 二十四節気」放送開始。
NHK「こころの時代」「ラジオ深夜便」等出演。



保山耕一
公式ホームページ

「表紙の人」は、「第19回奈良県景観デザイン賞」の審査委員をしていたいただきました、保山 耕一さんです。テレビカメラマンとして活躍の後、現在は奈良県各地の撮影を中心に、映像作家として活動しておられます。今回は、カメラマンの視点から見た奈良県の建築物などについて、お聞きしました。

■『保山さんの好きな奈良県内の建築物』について、お聞かせください。

大和で誇るべき建築物、真っ先に思い浮かぶのは春日大社です。現在、奈良では景観を考慮した素材、色を使用して建築することが求められますが、春日大社に使われている朱色は一見すると自然界では希な色であり、机上では相性が悪いと考えられます。ですが、実際に春日の杜に佇む姿を目にすると、鮮やかな朱色が周りの自然に溶け込み、雪、藤、桜、緑、いかなる四季の色彩に対してもお互いを引き立てあうのです。そして、建物そのものも周りの自然と一体化するように、本殿とそれを囲む回廊は地面の傾斜に沿って建てられています。建築の都合で建物のデザインを決めるのではなく、そこにある自然の中にいかに建物を馴染ませ一体化するかを考える。春日大社はその究極の建物であることは間違いありません。昨今、景観を考慮した建物の必要性が話題になりますが、春日大社から学べるものはたくさんあり、自然の中に人間が建物を建てさせて頂くという謙虚さ、自然への畏怖の念、先人の考えと建築技術は現在のそれよりかなり高尚で高度だと感じています。



■『奈良県での撮影を通して、変わってほしくない点』について、お聞かせください。

私たちはインバウンドの賑わいで奈良でしかない「空気」が変わってしまうことを経験しました。歴史的景観や文化財を残すことは重要ですが、1000年以上前から途切れることなく続いてきた祈りの地・奈良が持ち続けてきた「空気」を後世に残す意識も必要だと感じています。

【記：教育・事業委員会 委員長 城田全嗣】

「第19回奈良県景観デザイン賞」審査員紹介映像は、
右のQRコードからご覧下さい。



■『場を生むデザイン賞』の誕生

奈良県建築士会デザイン賞部会では約2年前より奈良県景観デザイン賞の見直しに取り掛かりました。

奈良県景観デザイン賞は奈良県景観調和デザイン賞を含めて過去に18回開催されており、県内の優れた建築を数多く表彰してきました。しかし、地域を取り巻く状況は人口減少や少子高齢化等多くの課題を抱えており、近年大きく変化しています。そこで「地域社会に密接に関わる建築のあり方もその変化に歩み寄る必要があるのではないか」という思いをデザイン賞に取り入れたいと考えました。

建築というものと向き合うことは、建築を生み出す我々にとって使命のように感じていますが、一方でこの使命は我々の視野を狭くしているようにも感じています。そこで建築を「場」と言い換えることで建築という小さな枠組みに囚われずに、肩の力を抜いて魅力的な「場」について考えることが出来るのではないか？ 魅力的な「場」を考えることは建築の廻りにあるものを自然と俯瞰できるようになるのではないかと？ また地域のなにげない場の力を知り、感じてもらうことで地域に愛着を持つようになるのではないかと？ という思いから「場を生むデザイン賞」と名付けました。

日々の暮らしの何気ない場には「地域の人々の縁となる場」「地域の人々が元気になる場」「地域の人々の記憶となる場」があります。このような何気ない場が地域にたくさんあれば、きっと地域が抱えている多くの課題は解決するはずです。「場を生むデザイン賞」がそのきっかけとなることを願い、本年度からスタートしました。



最優秀賞（知事賞）：森のねんど研究所

詳細の審査結果・講評などについては
右のQRコードからご覧ください。



優秀賞：三宅町交流まちづくりセンターMi iMo



優秀賞：ゲストハウス三奇楼・三奇楼デッキの下

■『場を生むデザイン賞』の審査結果発表

「場を生むデザイン賞」という試みの信念はあったものの、応募が集まるかどうかについては大きな不安がありました。近年の奈良県景観デザイン賞の受賞作品は、この「場を生むデザイン賞」の趣旨に近いものが選ばれていましたが、主催者側が満を持して「場の力」というものを問いかけることは、ある程度の戸惑いを生み、応募へのハードルになるだろうと想像していました。しかし、その想像は良い方に裏切られ前回の応募作品数の35点を超える40点の応募を頂きました。応募作品の中には大きな賑わいを生むものから素朴な賑わいを生むもの、すでに場として完成しているものもあれば、大きな可能性を感じるものなどがあり、多様な「場」が集まりました。書類審査の一次審査で選ばれた9作品を二次審査として現地視察しましたが、魅力的な場を生み出しておられる人々はやはり魅力的で、審査委員の方々の質問に対する答えにも何気ない力を感じました。「場を生むデザイン賞」の審査会は建築分野だけでなく、幅広い分野から集まって頂いた5名の審査委員で構成しております。この審査会で行われた魅力的な場についての深掘りには多くの気付きと学びがあり、今後の「場を生むデザイン賞」の方向性を示唆しただけでなく、一人の建築を生み出す者としても刺激的なものとなりました。審査会の結果選出された作品はどれも素晴らしい「場」であることは言うまでもないのですが、選出されていない作品にも時を経ることで新たな魅力を生み出しそうな「場」が多くあり、今後に期待を感じています。

■『場を生むデザイン賞』の今後

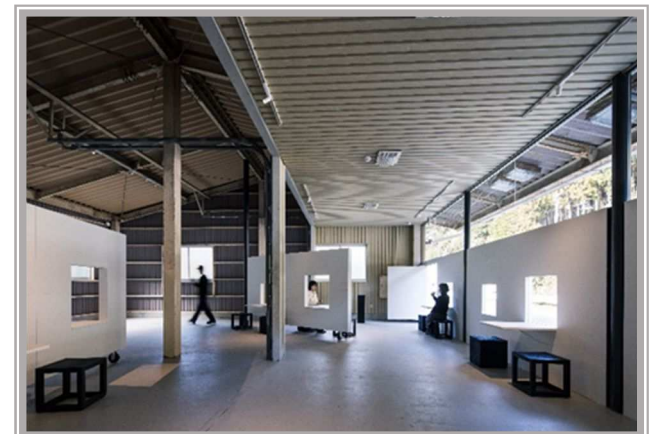
今回受賞された「場」の取材活動を引き続き行い、その内容を広く周知させることで、魅力的な場が魅力的であり続けるお手伝いが出来ればと考えています。また、この周知活動は魅力的な場を生み出そうとする者の手掛かりとなるツールとしても活用できそうです。さらに魅力的な場はどの地域にも存在するはずなので、魅力的な場を「評価すること」、「紹介すること」、「生み出すこと」を流行らせる活動にも繋げていきたいです。奈良で生まれた「場を生むデザイン賞」が全国の都道府県で開催されれば、これ以上嬉しいことはありません。



奨励賞：コミュニティスペースハッピー



奨励賞：奈良カエデの郷ひらら



奨励賞：doors yamazoe

【記：教育・事業委員会デザイン賞部会長 巽浩典】